《第106回》令和四年四月の作品

〈四月八日（金）文京区民センター３Ｅ〉

小国を攻める大国春の雷　（一江）

何事もなきが宝や桜餅　（正佳）

恋猫の野太き声や眠り裂く　（貴美）

かざぐるま胸に秘めたる恋のこと　（平六）

水草の緑揺らぎて雪解水　（奉男）

ギブス解け足取り軽し桃の花　（正雄）

原発のチョルノービリの春寒し　（前歩）

桜見のランチを妻とかに御膳　（孝昭）

浚渫の泥に蠢く蝌蚪の群　（隆治）

一寸先見えぬ黄砂を兵馬行く　（清助）